

# 水稲の生育状況（7月25日現在）と栽培上の留意点について

発信日：2023年7月26日

## 1 生育状況

7月25日現在の水稲の生育状況は、平年値（2013～2022年までの過去10年平均）と比べて、表1のとおりです。

表1 水稲の生育状況(7月25日現在)

品種	移植時期	草丈	茎数	葉色
はるみ	6月上旬*	同等	やや少ない	薄い
	6月中旬**	同等	少ない	やや薄い
キヌヒカリ	6月上旬	同等	やや多い	薄い
	6月中旬	同等	少ない	同等
てんこもり***	6月上旬	やや短い	同等	薄い
	6月中旬	やや長い	やや多い	同等

\*2014～2022年までの過去9年平均との対比 \*\*2015～2022年までの過去8年平均との対比

\*\*\*2018～2022年までの過去5年平均との対比

## 2 栽培上の留意点

気象庁が7月20日に発表した1か月予報（7/22-8/21）では、気温は「高い」、降水量は「ほぼ平年並」、日照時間は「ほぼ平年並」の見込みとなっています。今後の栽培管理については、次の点に留意してください。

### (1) 出穂期

出穂期は、7月25日現在の生育状況と今後の気象予報からやや早いと予想されます。

### (2) 追肥（穂肥）

追肥は、稲の生育調整と後期の生育維持のために実施します。追肥時期は幼穂の長さから判断し、施用量は水稲の品種や生育状況、天候や水田の特性により調整してください。標準的な追肥時期及び施用量は表2のとおりです。

なお、‘てんこもり’は追肥をしっかりと行わないと、屑米が多くなる傾向があります。必ず追肥を施用し、施用量は‘はるみ’よりも多くしてください。

表2 標準的な追肥時期と施用量

品種	時期	施用量（10aあたり）
はるみ	出穂期の15日前頃 （幼穂長15～20mm程度）	窒素成分2kg （例：化成肥料17-0-17で約12kg）
キヌヒカリ	出穂期の20～15日前頃 （幼穂長2～20mm程度）	窒素成分2kg （例：化成肥料17-0-17で約12kg）
てんこもり	出穂期の20日前頃 （幼穂長2mm程度）	窒素成分3kg （例：化成肥料17-0-17で約18kg）

※ 基肥に緩効性肥料（てまいらず等）を使用した場合は、追肥は基本的に不要です。

## ア 施用時期及び施用量の判断

- ・ 葉色が濃い、茎数が多い、草丈が長い場合は施用時期をやや遅らせます。
- ・ 多日照・高温傾向、乾田・漏水田などの場合は施肥量をやや多くします。

## イ 幼穂長の測定方法

- (ア) 平均的な生育をしている株の中で草丈が一番長く、太い茎を根元から抜く。
- (イ) カッター等で茎を縦方向に切る（手を切らないよう注意する）。
- (ウ) 幼穂の基から先端までの長さを測定する（写真1）。
- (エ) 一ほ場当たり3～5株を測定する。



幼穂長の計測(写真1)

## (3) 水管理

穂ばらみ期から登熟初期（出穂期15日前から出穂期10日後）までの期間は、稲が最も水を必要とする時期なので、水を切らないようにしてください。

ただし、出穂後に高温が続くときは、(4)の高温障害対策を参照してください。

## (4) 高温障害対策

本年は8月の気温が高くなる見込みのため、高温障害の発生が懸念されます。出穂後に高温が続くときは、白未熟粒や胴割粒の発生が多くなる可能性がありますので、次の対策を行ってください。

### ア 水管理

出穂期以降は「かけ流しかん水（特に夜間のかけ流し）」を行います。かけ流しが困難な地域では「間断かん水」を行い、常時湛水しないようにしましょう。

また、落水時期は可能な限り遅らせ、「早期落水」ないようにします。

### イ 追肥管理

生育後半に窒素不足になると白未熟粒の発生が多くなる傾向があるので、適正な追肥管理を行い、登熟期に肥料切れがおこらないようにします。

## (5) 病虫害防除

### ア 斑点米カメムシ類

斑点米カメムシ類（写真2）に吸汁されると、玄米に斑点が生じることがあります（写真3）。畦畔等の雑草で増殖するため、除草を徹底することが有効です。ただし、出穂期頃の除草は、水田に追い込むことになるため、畦畔雑草の除草は出穂10日前までに必ず終わらせましょう。

本田における薬剤防除は、病虫害防除部の「令和5年度病虫害発生予察情報」を参照してください。

### イ 紋枯病（写真4）

紋枯病は、高温・多湿条件で多発します。‘はるみ’、‘てんこもり’ともに紋枯病にはやや弱いため、発生に注意してください。多発すると倒伏しやすくなるので、必要に応じて防除します。常発地では穂ばらみ期までに防除を行きましょう。



ホソハリカメムシ



クモヘリカメムシ



アカヒゲホソ  
ミドリカスミカメ



アカスジ  
カスミカメ

斑点米カメムシ類 (写真2)



斑点米 (写真3)



紋枯病 (写真4)

### ウ 籾の褐変 (写真5)

出穂期前後の強い降雨、強風及び高温の条件下では、籾枯細菌病、内穎褐変病といった病気や褐変症状が発生しやすいので注意してください。常発地では、出穂期前に薬剤散布を行いましょう。

### エ スクミリンゴガイ (ジャンボタニシ) (写真6・7)

発生地域では周辺への拡大防止や密度を減らすため、水田や水路の貝を捕殺するとともにピンク色の卵 (卵塊) は潰しましょう。また、水田内への侵入を防止するため、水口と水尻に6～9mm目合いの網を設置しましょう。

### オ ナガエツルノゲイトウ (写真8)

これまで確認されていなかった地域で水田への侵入が認められ、発生地域が拡大しています。水田に疑わしい雑草が見られた場合は、最寄りのJAまたは農業技術センターに連絡してください。



籾の褐変症状 (写真5)



スクミリンゴガイの卵塊  
(写真6)



スクミリンゴガイ (写真7)



ナガエツルノゲイトウ (写真8)

※ この他の病虫害防除対策は、病虫害防除部の「令和5年度病虫害発生予察情報」を参照してください。

[https://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/2023\\_3\\_31.html](https://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/2023_3_31.html)

※ また、薬剤防除を行うときは、病虫害防除部の「防除情報(病虫害情報 号外 第4号)」を参考に、適切な農薬使用をお願いします。

[https://www.pref.kanagawa.jp/documents/97362/20230703\\_gogai4.pdf](https://www.pref.kanagawa.jp/documents/97362/20230703_gogai4.pdf)

## (6) 熱中症対策

農作業中の熱中症に注意してください。熱中症の予防には日中の気温が高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等の工夫を行いましょう。

のどが渇いていなくてもこまめに水分補給するとともに、帽子の着用や汗を発散しやすい服装に心がけましょう。



## (7) 台風対策

台風の襲来が予測される場合、被害の回避や軽減のため、次の対策が有効です。

台風などの大雨時の用排水路や水田等の見回りは大変危険です。 気象情報及び周囲の状況を十分に確認し、安全な状況になるまでは行わないようにしてください。

### ア 事前防止対策

- ・ 用排水路に詰まり等が無い点検します。定期的に清掃を行うことで、浸水及び冠水時の速やかな排水に備えます。
- ・ 可能な地域では、深水管理を行い、急性萎ちょうや倒伏防止に備えます。

### イ 事後対策

- ・ 損傷で茎葉からの蒸散量が多くなるので、台風通過後は湛水を保ちます。
- ・ 風台風、特に台風が北側を通過する場合は、潮風害（塩害）を受けやすいため、台風通過後、可能な場合は動噴等を利用して真水を散布し、洗い流します。
- ・ 台風通過後に病害虫が発生することがあるので、病害虫防除部の「令和5年度病害虫発生予察情報」に注意します。

## 【参考】

表3 農業技術センター（平塚市）での過去10年（2013～2022年）平均

作期	品種名	標準的な追肥時期	水を切ってはいけない期間	出穂期	成熟期
6月上旬植	はるみ	(7月26日頃)	7月26日～8月20日頃	8月10日	9月18日
	キヌヒカリ	(7月20日～25日頃)	7月25日～8月19日頃	8月9日	9月17日
	てんこもり	7月27日頃	8月1日～8月26日頃	8月16日*	9月24日*
6月中旬植	はるみ	8月1日頃	8月1日～8月26日頃	8月16日**	9月25日**
	キヌヒカリ	7月26日～31日頃	7月31日～8月25日頃	8月15日	9月24日
	てんこもり	7月31日頃	8月5日～8月30日頃	8月20日*	10月2日*

・ 水を切ってはいけない期間は、出穂期約15日前～出穂期約10日後までの期間。水稻が最も水分を必要とする時期なので、水田の水位を十分に保つようにする。

・ \*2018～2022年（5年平均）のデータに基づく。 \*\*2012, 2015～2022年（9年平均）のデータに基づく。

問合せ先

農業技術センター普及指導部作物加工課

TEL : 0463-58-0333 内線 381～384